2022.5.12. 木曜礼拝　なぜ神は祈ってはならないと言われたのか

エレミヤ書 7 章

JD ファラグ牧師

こんばんは。どうぞお座りください。皆さんお越しくださり嬉しいです。お元気ですか？祝福されていますか？　いいですね。オンラインでご参加の皆さんも歓迎します。木曜日の夜は、聖書を書ごと、章ごと、節ごとに読み進めています。現在はエレミヤ書で、今夜は 7 章です。まだの方は、聖書をお開きください。まだの方は、聖書をお開きください。皆さんが考えていることは分かります。私は皆さんの思考を読めるからです　ー（笑）ー　皆さんが考えていることは分かります。私は皆さんの思考を読めるからです。ー（笑）ー　なので…　皆さんが計算したところでは、エレミヤ書には 52 章あると思います。何週間かかるのだろうかと。1 年かもしれないと。そこで質問ですが、エレミヤ書を読み通すのに丸 1 年かかるでしょうか？　いや…携挙が先にくることを願っていますが。始める前に、2 つほど。6 月 5 日日曜日には水の洗礼を行います。第二礼拝の後、1 時です。申し込む必要はありません。ただお越しください。水のバプテスマを受けたことがない人は、必ずやりたくなるはずです。聖書の中に書かれている命令です。もちろん、救いに必要なものではありませんが、内なる救いの決意を外側に表現したものです。また翌週の火曜日は、午後 7 時からこの聖堂で祈り会が行われます。ぜひ、ご参加ください。ぜひ、ご参加ください。この機会に、携帯電話がマナーモードになっていることをご確認ください。まずは祈りの言葉から始めましょう、よろしければご一緒にお願いします。

あぁ、主よ、本当にありがとうございます。主よ、今私たちを落ち着かせてください、私たちの心を静めて、思考をクリアにしてください。私たちの思いがさまよわないように、聖霊によって、私たちが集中できるよう助けてください。主よ、敵はいつものように、今夜ここであなたが私たちのために用意されたもの、あなたの御言葉を私たちに聞かせたくないことは知っています。ですから、私たちの思いがさまよわず、集中し続けることが出来るようにしてください。主よ、今夜私たちの前にあるこの章において、聖霊が私たちの教師となり、手強いことの導き手となってくださることを素直に認めます。しかし、良いものです。聞くのが辛いほどに、主よ、私たちはそれを聞く必要があります。主よ、私たちは聞く必要があり、それに心に留める必要があります。聖霊がいてくださらなければ、そうする望みはありません。ですから主よ、私たちが今夜、あなたの御言葉の中で共に過ごす時、私たちのために、私たちの内にそうなさってください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。それでは。この章では、神はなぜ祈ってはいけないと言われたのか？　という聖書の中でも、最も衝撃的な問いに答えようと思います。この章では、神はなぜ祈ってはいけないと言われたのか？　という聖書の中でも、最も衝撃的な問いに答えようと思います。それはこれから見ていくように、神がエレミヤに語られることであり、神は預言者エレミヤを通して、この民のために祈ってはならない、神はその祈りを聞かれないからだと仰っているのです。繰り返しますが、これから見ていくように、神がその祈りを聞かれない理由は、その神殿における民の邪悪な行いと忌まわしい行為のためです。神は初めから終わりを、終わりから初めを知っておられ、エレミヤは知りません。神はすでに民の心が頑なになり、彼らの心は決まっていて、それによって彼らの運命は決まっているのです。そして事実上、エレミヤを彼らのために祈ることから解放しているのです。では、あなたが祈りのリストから人を削り始める前に、なぜ神がエレミヤにこのようなことを言われたのか、その理由を見ていきましょう。1 節。

エレミヤ 7

1 主からエレミヤに臨んだ言葉はこうである。
2「主の家の門に立ち、その所で、この言葉をのべて言え、主を拝むために、この門をはいるユダのすべての人よ、主の言葉を聞け。
3 万軍の主、イスラエルの神はこう言われる、あなたがたの道とあなたがたの行いを改めるならば、わたしはあなたがたをこの所に住まわせる。
4 あなたがたは、『これは主の神殿だ、主の神殿だ、主の神殿だ』という偽りの言葉を頼みとしてはならない。
さて、それでは…、お分かりのように、恐ろしいスタートを切りましたね。ここで神から与えられた知性と想像力を駆使して、一緒に考えてほしいのです。いいですか？　7 章から 10 章までは、「神殿の説教」または「神殿の預言」と呼ばれているものです。なぜなら、エレミヤは今、神によって、神殿の入口に行って、このメッセージを宣告、預言し、説教するように命じられたからです。そして、エルサレムの神殿の入口で、最も多くの人々が集まり、適切なタイミングで適切なメッセージを聞くことができる場所で、これを行おうとしているのです。民はそれを受け入れません。この章の後半で見るように、神はエレミヤにこのことを思い出させられます。しかし神は今、エレミヤにこれを宣告し、これを説き、神殿の入り口でこれを宣べ伝えよと命じておられます。公の説教です。そして、恐ろしいスタートを切ったというのは、こういうことです。というのも、すでにこの具体的な 4 節に、エレミヤへの応答が記されているからです。それは、こういうものだったのです。
「これは神殿だ。すべて大丈夫。何も起こらないさ。私たちは神殿にいるんだ。」彼らはただ思い込んでいるだけで、これから見るように、神殿に信頼を置いているのです。「そんなぁ、神は神殿を破壊されたりしない。これは神殿だ、神殿だよ。主の神殿だ。」おぉ、本当ですか？　5 節。
5”もし”（キーワード）あなたがたが、まことに、その道と行いを改めて、互に公正を行い、
6（もし）寄留の他国人と、みなしごと、やもめをしえたげることなく、罪のない人の血をこの所に流すことなく、また、…
なんというリストでしょう。
… ほかの神々に従って自ら害をまねくことをしない”ならば”、
7 節。「もし…ならば…」に注目してください。
7 わたしはあなたがたを、わたしが昔あなたがたの先祖に与えたこの地に永遠に住まわせる。
とても重要なので、どうかこれを見落とさないでください。神の愛は、無条件です。神の約束は、多くの場合、条件付きです。「もし…ならば…」「もしあなたがこれをするなら、わたしはこれをしよう。」聖書には繰り返し書かれています。私たちが何かをすることを条件とし、「もし私たちがそれをするならば、神はこうなさる」という約束を次々に見つけることができます。例えです。沢山ありますが…
分かりました、箴言 3 章 5 節と 6 節を取りあげましょう。良く知られていますね？
箴言 3
5 心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。
6 すべての道で主を認めよ、…
これは条件付きの約束です。もしあなたが、自分の知識に頼らず、もしあなたが、心を尽くして主に信頼するなら、もしあなたが、すべての道で主を認めるなら、
…そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。

主はあなたの道をまっすぐにされます。主はあなたの道を導かれます。条件付きの約束です。つまり、そのような条件が満たされないと、神が私たちの道を導いてくださるとは、期待できないのです。なぜなら、私たちが主を認めず、主に信頼せず、自分の理解に頼るからです。それらは、神が約束されたことを行われる前に整えるべき条件なのです。聖書には、このような条件がたくさんありますが、どうかお願いします、神の愛は無条件なのです。しかし、神の御言葉の中には、条件付きの約束があるのです。そして、このユダもそのようなことが言えるのです。

「もし、もし、もし…するなら、そうすれば、わたしはこうしよう。」では、これを理解することが重要で、このタイミングで言及するのには理由があります。この時点では、つまり、すべてがただ上手くいっているのです。神殿は満員で、立ち見席、溢れるほどの人数。駐車場が足りません。子どもミニストリーの部屋には空きがありません。こういうことが、そこで起こっていたのです。進み、成長し、光り輝いていたのです。さて、想像できますか？　神がエレミヤを通して語られ、エレミヤが預言していることを、彼らはどのように受け取ったのでしょうか。彼らはエレミヤを見て、こう言います。

「何が問題なんだ？　何を話しているんだ？　この神殿を見てみろよ。これだけの人数が来ているのだから、見てみろよ。」おぉ、ちょっと待って。申し訳ありません。何か大きな誤解があるようですね。というのも、どうやら数的な成長と神の祝福を同義に捉えているようですね。

「わお、神はここにおられるに違いない。だって、こんなに人がいるんだから。」

もしそうなら、誰も知らないような人里離れたところにある、本当に小さな教会はどうなのですか？　多くの人がいないから、神はそこにおられないのですか？　ただ数的に成長しているように見えるので、神の祝福がそこにあるという考えを、私たちはどこで、どのように、いつから信じてきたのでしょうか。

「ここは、何かが起こる場所だよ。」このことは、ラオデキアに聞いた方がいいかもしれませんね。何が言いたいか分かりますね？　黙示録 3 章です。あえて言うなら、カルバリー・チャペル・ラオデキアの駐車場に車を停めれるでしょうか。すみません、説明のためにこれを使わせてもらいます。駐車場を探すのに苦労することでしょう。満員なのです。そこには、非常に大勢の人がいます。問題なのは、イエスがそこにおられないということです。イエスは戻ろうとしておられ、実際に、扉をノックしておられるのです。「おーい！入れてくれませんか？　あなたと食事を共にし、わたしと食事を共にしませんか？」

イエスはその中におられないのです。それが、ここで起こっていたことです。神は神殿の中におられませんでした。彼らは神殿に信頼を置き、誇りを持っていたのです。

「何が起きているのか、よく見てくださいよ。この場所は満員です。エレミヤが入り口にいる、必要なときに警備員はどこにいるんだ？　彼は人々に、自分の行いを改めなさいと言っている。」 もし、徹底的に裁きを実行するなら…このリストを見てください。信じられますか？　彼らがしていたこと、互いへの接し方といったら。私の記憶違いでなければ、人間と神との縦の関係に関係するのは、このうちの 1 つだけだったと思います。それ以外は横の関係で、互いの接し方についてです。彼らは他国人、みなしご、やもめをしいたげ、罪のない血を流していたのです。間もなくこのことについてお話しします。非常に生々しいです。彼らは他の神々に従って、自らに害を招いていたのです。しかし、そんなことはどうでも良いようでした。彼らはこれらすべてを行っていたのです。ああ、また、これから見るようにもっと酷くなります。8 節。

8 見よ、あなたがたは偽りの言葉を頼みとしているが、それはむだである。

このリストに準備は良いですか？　9 節。

準備ができようができまいが、これです。
9 あなたがたは盗み、殺し、姦淫し、偽って誓い、バアルに香をたき、あなたがたが以前には知らなかった他の神々に従いながら、
10 わたしの名をもって、となえられるこの家に来てわたしの前に立ち、『われわれは救われた』と言い、しかもすべてこれら憎むべきことを行うのは、どうしたことか。
え〜？！　待って、待って、待ってください。さて、ここでちょっと一歩引いてみましょう。彼らは何の益もない嘘の言葉を信用しています。そして、互いに盗み合い、殺し合っています。彼らは互いに姦淫し合い、互いに偽りの証言をしています。おぉ、彼らはバアルに香をたいているのです。知らない他の神々に付き従っているのです。これが月曜日から土曜日の姿で、そして、日曜日には教会に来るのです。そして、彼らは主の家で主の御前に立ち、大胆にもこう言うのです。
「すべて良し。誰がこれらの忌まわしいことを行うために、救われたのですか？」つまり結局のところ、「神殿を見てください。どれほど私たちが祝福されているか、私たちが何人いるかを見てください。」
11 わたしの名をもって、となえられるこの家が、あなたがたの目には盗賊の巣と見えるのか。わたし自身、そう見たと主は言われる。
はい、ここで少し考えてみましょう。まず初めに、これは聞き覚えがありますね？　というのも、イエスが神殿を清め、両替人の台を倒されたときに引用された聖句だからです。（マタイ 21:12 - 13 参照）
イエスはまず、ここを引用されました。「あなたがたはわたしの家を、強盗の巣にしている。神殿に強盗を隠している。あなたがたは、これらのことを神殿の中で行っている。これはわたしの家だ。あなたがたはわたしの家に入って来て、こんなことを行っているのか。わたしは自分の目で、見てきた。あなたがたはわたしの家、わたしの教会、わたしの神殿、礼拝の場所を、強盗の巣に変えてしまった。」12 節。
12 わたしが初めにわたしの名を置いた場所シロへ行き、わが民イスラエルの悪のために、わたしがその場所に対して行ったことを見よ。
13 主は言われる、今あなたがたはこれらのすべてのことを行っている。またわたしはあなたがたに、しきりに語ったけれども、あなたがたは聞かず、あなたがたを呼んだけれども答えなかった。
14 それゆえわたしはシロに対して行ったように、わたしの名をもって、となえられるこの家にも行う。すなわちあなたがたが”頼みと”する所、…
分かりましたか？「おぉ、あなたは神殿に信頼を置いているのか？　数的な強さに信頼を置くのか。あなたはわたしが与えたものに、信頼を置いている。」それが次に主が語っておられることです。
…あなたがたが頼みとする所、わたしがあなたがたと、あなたがたの先祖に与えたこの所に行う。
15 そしてわたしは、あなたがたのすべての兄弟、すなわちエフライムのすべての子孫を捨てたように、わたしの前からあなたがたをも捨てる。
シロへの言及が興味深いです。シロとは何か？　エルサレムに近接する都市でした。それは、約 350 年、会見の天幕の場所だったという説もあります。だからエレミヤは、シロで起こったことと、エルサレムにいる自分たちとを比較させるように、神から言われているのです。なぜなら、シロで起こったことは、天幕が破壊されたからです。なぜ天幕が破壊されたのか？　民の悪のゆえです。エルサレム、ユダに言い換えると、「あなたがたは、先祖のシロを覚えているか。シロの天幕を覚えているか。私が素晴らしいことをした場所として、どのように建っていたか覚えているか？　会見の天幕、神の栄光の顕現、契約の箱を。」これが幕屋であり、その後神殿に取って代わったのです。同じ設計ですが、エルサレムの永遠の神

殿を指し示す、その予兆となる仮の建物だったのです。
「350 年間、そこはわたしの名、わたしの家、わたしの幕屋であり、礼拝の場所だった。」祝福されていたのですが、悪のゆえに、そこは破壊されたのです。ペリシテ人とアッシリア人が最終的に滅ぼすことになり、北イスラエル部族を、捕虜としたのです。そして、ユダ、南ユダも同じ足跡をたどることになるのです。だから、神はシロを持ち出されたのです。何が言いたいのか、私たちの人生にどう適応するのか？過去に何が起こったのか、よく覚えておくといいと思います。そして、それを現在に生かすことで、将来、同じ運命をたどらないようにするのです。あなたへの警告としましょう。「わたしはあなたに懇願している。朝早く起きて、あなたに声をかけようとしているが、あなたは応答しない。返事がない。わたしはあなたに懇願し、警告しているが、あなたは反応しない。わたしはあらゆることをして、手段を選ばず、シロと同じ運命をたどらないようにしているが、しかし、あなたはその方向に向かっている。まさにその通りのことが起こる。」
悲しいことに、まさにその通りのことが起こったのです。16 節。これに少し時間をとります。これは、神がエレミヤに語っておられるのです。
16 あなたはこの民のために祈ってはならない。
ここで止めます。なぜなら、ここには、エレミヤがこの民のために祈っていたという意味合いがあるからです。そうでなければ、なぜ神は彼らのために祈ってはならないと指摘されるのでしょう？　もしエレミヤが、彼らのために祈っていたのでなければ。そして神は言われます。
…彼らのために嘆き、祈ってはならない。…
つまり、エレミヤは神の民に代わって神に叫び、とりなしていたのです。なぜなら次に、神はこう言われるからです。
…またわたしに、とりなしをしてはならない。…
理由はこれだ、エレミヤよ。
…わたしはあなたの求めを聞かない。
エレミヤは、この民の為に祈ることから、解放されたのです。なぜなら、繰り返しますが、神は初めから終わりをご存じだからです。神は彼らが反応しないことを知っておられ、神は彼らが悔い改めないことを知っておられるので、エレミヤを彼らのために祈る重荷から事実上免れさせ、解放しておられるのです。彼らは自分たちの道を変えず、彼らは主の元に戻って来ない。だから、彼らのために祈るのはやめなさいと。さて、先ほども言いましたが、あなたは自分の祈りのリストから人を消し始めますね。慎重に、本当に祈りながらにしましょう。なぜなら、神があなたを解放されるときが来るからです。神はそれを明らかにしてくださいます。
「いいですか、あなたは彼らのためにもう祈る必要はない。もう彼らのために祈ってはならない。」
理由は分からないかもしれません。考えられるのは、公平に見て、神はすでに彼らの心が硬くなり、決心し、運命が決まっていることを知っておられるのでしょう。ですから、彼らのために祈る必要はないのです。神はただ、あなたを解放されるのです。
こういった時があり…
私自身の人生でもそうですし、友人たちからも、何年もかけてこの境地に達した人たちの話を聞いています。15 年、20 年とか、そういう話です。彼らはその人のことをあきらめていないのですが、ただ、もうその人のために祈らなくていいという主からの解放を感じるのです。神は彼らのために、他の誰かに

祈らせておられることは大いにあり得ることです。私たちには分かりません。しかし、神はしばしば、誰かのために祈ることを告げられ、あるいは解放する必要があると判断されます。聖書の中で、神が「祈ってはならない」と仰ったのは、他に一度しか知りません。それは、出エジプト記 14 章の、紅海でのことです。全く異なる状況ですが、神は基本的にモーセに、祈るのをやめて、動き出しなさいと仰るのです。なぜなら、あなたは乾いた地の上で、この紅海を渡っていくからです。ここでモーセは神に泣き叫んでいます。「おぉ、神よ…！」神はこんな感じです。「なぜあなたは、まだわたしに泣き叫んでいるのか？
やめなさい。祈るのをやめて、動き始めなさい。」さて、なぜこれを持ち出すのか？　なぜなら…どうかこれに関して聞いてください。私は自分自身のことを話します。私は自分の人生の中で、行動を起こさないという免許をとってしまったことを知っています。私は祈りを、行動を起こさない言い訳にしてきました。「ええ、私はそのことをまだ祈っているのです。」おぉ、そうですか。ちょっと待って。神がこう仰っているようです。「なぜあなたはまだ祈っているのか？　祈るのをやめて、動き出しなさい。」ほら、祈りは時に、それ自体がとても尊いものになりえます。そうですね？　それにどう答えますか？
「ええ、私はまだそれについて祈っているんです。」おぉ、そうですか…。あなたは 5 年も祈っているのですか？「まだ祈っています。」そう？　さらに 5 年後、10 年が過ぎました。「私はまだそのことを祈っています。」もしかしたら、何か行動する必要があるのでは？　祈るのをやめて、動き出しなさい。彼らのために祈ることからあなたを解放するだけでなく、神があなたにこう言われるときが来るのです。
「いいかい？わたしはあなたの祈りを聞いた。すでにそれに答えた。なぜまだ祈っているのか？　わたしはすでに答えを与えた。紅海が見えないのか？　紅海を分けたではないか。おーい？見なさい。乾いた地を見なさい。なぜあなたはまだ祈っているのか？わたしはもうしたのだ。さぁ、動き始めなさい。行きなさい。踏み出しなさい。動きなさい。」はい、それでは…皆さん大丈夫ですか？　それは触れない話題ですよね？　ここでは、実際に祈っていることを前提にしています。さて、ちょっと待ってください。これについて話す必要があるかもしれませんね。再度、これについて自分自身のことを話しましょう。
祈りに関して、私が主との歩みの中で学んでいることの一つは、十分に祈ることも、祈りすぎることもない、ということです。そんな表現を聞いたことがある、いや、もしかしたら言ってしまったことがあるのでは？　私は意地悪でも軽蔑しているわけでもないのですが、何年も前に、ある人が私に、こう言ったのを覚えています。「私は祈りきった。」私は…？？！！　「え？！どうやってそんなことできるの？　どうやって…？」あなたは、「よし、十分に祈った。」という地点に達するのですか？　そんなことはありません。使徒パウロは、「絶えず祈りなさい」と語ったと思います。（Ｉテサロニケ 5:17 参照）
ちなみにそれは、あなたが祈る時、ひざまずく必要はないということです。何も悪い事ではありませんが、体の姿勢ではなく、心の姿勢が大切なのです。そして、目を閉じる必要もありません。だって、もし私が絶えず祈るのなら、運転中はどうなりますか？　運転中は、目を開けておく必要があります。私は運転中に、たくさん祈ります。もうすでに告白したので、これ以上お話ししませんが、実は、私は運転中に最高の祈りを捧げるのです。特に、駐車場を探している時は。ー（笑）ー「祈り続けなさい。絶え間なく。」止めないのです。実際にそう言った人が、同じ名前の本を著しています。「神との絶え間ない意識的な交わり」一日中、毎日、一日を通して、ただひたすら祈り、主と語り合う。そして、主が一日中あなたと語り合ってくださるのです。時々、自分でも気づかないうちに、あるいは娘が私のオフィスにやってきて…「何やってるの？自分に話しているの？　そんなに悪いの？　おかしくなってるの？　何かあったの？」ーいいや、祈ってるんだよ。私は声に出して祈ります。時には自分の祈りを聞くことが大切だから

です。ちなみに、声を出して祈ると、より祈りに集中するのです。心の中で祈ると、全然違いますよね？だって、突然、思いがどこかへ行ってしまうんです。ところで、これに気づいたことありますか？　きっとあるはずです。あなたが祈ろうとした時、地獄が解き放たれませんか？　つまり、メールが届いたり、電話が鳴りだしたり、すべてが起こり始めるのです。誰かが玄関にやって来ます。住所間違いです。誰かから電話がかかってきます。間違い電話です。ふむ…。なるほど、そういうことか。子ども達が喧嘩し始めます。おぉ、マジで？　私がただ祈り始めると、まさに今、すぐに喧嘩し始めるのです。なるほど、どういうことか分かりました。理由を知っていますね？　サタンは、祈りが決め手となることを知っているのです。だからサタンは、クリスチャンが祈らないようにするために、あらゆることをするのです。なぜなら、サタンは、クリスチャンが祈ると、自分にとってゲームオーバーだということを知っているからです。ゲームオーバーです。だから、祈りという武器を私たちの手から引き離すために、サタンはあらゆる手段を講じるのです。その描写が大好きです。今まで聞いた中で一番のものです。
2 人の対戦者がいます。そして、一人がナイフを振り回すと、すべてが変わってしまうのです。だから相手は、相手の手からナイフを奪うために、あらゆる手を尽くします。なぜなら、ナイフが決め手となることを知っているからです。そのナイフとは、祈りです。サタンはそれを知っているのです。そして、クリスチャンの手から祈りのナイフを振り落とすために、あらゆる手段を講じるのです。それは自分の敗北だと知っているからです。クリスチャンが祈る時が。ちなみに、祈りは大変なものだというのも、そのためです。あなたが祈るとき大変で、難しいのは…ところで、不眠症の方は、祈って、聖書を読んでください。すると、なんだか簡単に眠れます。こんな感じです。「おぉ、ダメだ、彼が祈って聖書を読んでいる！彼を眠らせろ！それなら出来るから。」さて、要点は分かったと思います。17 節。
もちろん、これは修辞的なものですが、恐ろしいです。
17 あなたは彼らがユダの町々と、エルサレムのちまたでしていることを見ないのか。
18 節を聞いてください。
18 子どもらは、たきぎを集め、父たちは火をたき、女は粉をこね、パンを造ってこれを…
良く聞いてください。
…”天后（天の女王）”に供える。
これは家族ぐるみの問題です。子どもと親がいて、皆一緒にこれらのことをし、礼拝し、供え物をし、
…また彼らは他の神々の前に酒を注いで、わたしを怒らせる。
19 主は言われる、彼らが怒らせるのはわたしなのか。自分たち自身ではないのか。そして自らうろたえている。
では、ここ数週間、おそらく 2、3 週間は、聖句の適用から自分自身を切り離し、権利を奪うという動きについて話してきたと思います。それを説明します。このような章には、エレミヤのような書には、クリスチャンである私たちは、読んでいる箇所から簡単に自分を切り離してしまいます。「これは民のためのものだ」という旗印のもと。「これは私の為じゃないよ。だってほら、私はそんなことしたことないよ。天の女王にケーキを作るって？　私には関係ないよ。」今夜の聖書の学びで、この聖句や節を壁紙に貼っている人は一人もいないはずです。思い出の一節のように、「私の人生の聖句は、エレミヤ書 7 章です」『彼らは天の女王のためにパンを作った。』どういうこと？　まぁ、そう急がずに。天の女王に聞き覚えはありませんか？　こんにちも健在です。”聖母マリア”として知られています。エレミヤの時代の民にとっては、これはイシュタルでした。これは…お許しください…性、豊穣、繁栄、欲望の神です。

イシュタル（イースター）また、天の女王とは、このような（母が子を抱く）母子の描写を目にすることがあります。しかも、見たこともないような不気味なものばかり。これはマリアと赤ん坊のイエスではありません。これは、崇拝されていた異教徒の母と子の神です。そしてまた、サタンは偽造の達人です。偽物は本物を認証し、証明するのです。だから 70 ドルの偽札を見たことがないのです。本物にないからです。だから、常に偽物、対極が存在することになるのです。だからこそ、偽キリスト、反キリストが存在し、偽ブッタや偽モハメッドは存在しないのです。この天の女王は、彼らが崇拝し、供え物を捧げていた異教の女神です。これが主にとって憎むべきものだったのです。
さて、聖句の適用から自分自身を切り離すこと、または、権利を奪うことに話を戻すと、これからさらに生々しくなっていくことでしょうが、しかし、エレミヤの時代に起こっていたことの預言的な類似点が、私たちの現代にも起こっているのです。この異教徒の崇拝は、こんにちも健在です。彼らはこのような形で異教の神々を崇拝しているのです。20 節。
20 それゆえ主なる神はこう言われる、見よ、わたしの怒りと憤りを、この所と、人と獣と、畑の木と、地の産物とに注ぐ。怒りは燃えて消えることがない。」
21 万軍の主、イスラエルの神はこう言われる、「あなたがたの犠牲に燔祭の物を合わせて肉を食べるがよい。
22 それはあなたがたの先祖をエジプトの地から導き出した日に、わたしは燔祭と犠牲とについて彼らに語ったこともなく、また命じたこともないからである。
覚えておいてください。すぐに分かると思います。
23 ただわたしはこの戒めを彼らに与えて言った、『わたしの声に聞きしたがいなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、
…従順は犠牲に勝るからです。神が犠牲をないがしろにされているのではありません。神は従順を強調しておられるのです。
「あなたがたはわたしの家に、わたしの名に、わたしの神殿に犠牲を持って来ていながら、このことを行っている。それは何の意味もない。わたしに従順ではないからです。好きなだけ犠牲をささげればよい。ところで、わたしがこれを命じたり、望んだことは一度もない。わたしが望むのは、犠牲よりも従順さだ。」
…『わたしの声に聞きしたがいなさい。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。わたしがあなたがたに命じるすべての道を歩んで幸を得なさい』と。
最初は見逃しやすいので、急いで読み進めたくはありません。私は幸いを得たいです。率直に言って、私はこのために祈ったのです。自分の人生において、物事がうまくいってほしいです。
「主よ、私の人生を祝福してください。物事が上手くいってほしいです。私は幸いを得たいのです。」
神はこう仰ります。「わたしもあなたにそう願っている。あぁ、わたしは本当にその祈りに応え、その恵みを与えたいと強く願っている。しかし…あなたはわたしに従わなかった。わたしに従わなかった。」
24 しかし彼らは聞き従わず、耳を傾けず、自分の悪い心の計りごとと強情にしたがって歩み、悪くなるばかりで、よくはならなかった。
ああ、そういうことなんですね。つまり、後退するのには何の努力もいらないということです。後退するための努力はまったく必要ない。私たちの心の傾向なのです。ところで、この表現を、あなたも聞いたことがあるでしょうし、自分でも言ったことがあるのではないでしょうか。またもや、軽蔑的な意味や意地

悪、きついことを言うつもりはないのですが、「ただ自分の心に従って」と言いますよね？　ダメです！自分の心に従ってはいけません！　エレミヤ書で見ることになりますが、「心は欺瞞に満ちて、邪悪だ」と。（エレミヤ 17:9 参照）
心に従わないでください。「自分の悪い心の計りごとと強情」自分の心に従ってはいけません。主に従うのです。あなたの心はあなたを欺きます。自己欺瞞です。あなたの心は欺瞞に満ち、邪悪です。自分の心に従ってはいけません。心はあなたを間違った道へと導きます。そして前進するのではなく、後退するのです。しかも、それほど時間はかかりません。自分の心に従うとき、それは、神から離れる磁気のようなものです。「計りごとと強情」これは具体的で、彼らが行っていたことの詳細です。質問をしたいと思います。皆さん同意されると思いますが、神はすべてを持っておられ、「すべてを手にしている人に、何をあげるのか？」と言いますよね？　神が必ずしも持っておられないもので、私たちが与えることができるものは何でしょうか？
答え：従順
それは、神が必ずしも持っておられないもので、私たちが神に与えることができるものです。それが神がここで仰っていることです。「わたしはあなたの従順を望む。犠牲は求めていない。」これが民がしていたことで、彼らは犠牲をささげていました。繰り返しますが、神は犠牲の重要性を軽視されているわけでも、否定されているわけでもありません。しかし、神が仰っているのは、あなたの犠牲は無意味であり、無駄であるということです。実際、彼らはわたしに反発している。従順さが伴っていないからです。
親として、どうですか？　子ども何かをしてくれたり、何かをくれたりしても、彼らが従順でないなら？それに対してどう答えますか？　毎年、父の日、誕生日…これはあまり話したくないのですが、そしてクリスマスに、子どもたちが私に尋ねます。「パパ、誕生日に何が欲しい？」今は、ただのいつもの冗談になっていますが、私はいつもこう言います。「私はお前の従順が欲しい。」「ハハハ！本当は何が欲しいの？」「いや、私は本当にお前の従順が欲しいんだ。私のお金で高価な贈り物を買いに行って、私に渡さないでくれ。ただ、お前の従順が欲しい。ただ私に従いなさい。それが私を祝福する。それがあなたが私に与えられる最善の贈り物なのだ。あなたの従順だ。私に従わないのであれば、犠牲や何かを作ったり、買ったり、何かをしたり、それを私に渡さないでくれ。」それはほとんど侮辱に近いからです。こんな感じです。自分の不従順さを補うために、このような犠牲を捧げようとしているのです。
「これを手に入れるために、私がどんな苦労をしたのか、わかっているのか？」なるほど、こういうことだったんですね。従順な人生より大変なことは何だと思いますか？　言いますよ？　不従順な人生です。別の言い方で言わせてください。主に従わないで生きることは、主に従うことよりも限りなく難しいのです。さて、ここでまた注意しなければならないのは、聖なる生活は、聖霊と相対するものであるということです。これは、私たち自身が作り出せるものではありません。私たちは誓ったり、約束はできません。「神様、私はもっと従順になります。もっと頑張ります。」いや、いや、やめてください！　いいえ、あなたはできません。聖なる人生を生きるためには、聖霊と聖霊の力が必要なのです。深い意味があるのは分かっています。聖霊ー聖なる人生　従順、それは、聖霊が私たちに宿り、私たちを可能にし、私たちに力を与えてくださることによってもたらされるのです。聖なる御言葉に従うことは、聖霊によるのです。そのように作用するのです。そして、気の毒なのは、自分の力で、自分の肉のエネルギーで、従順に歩もうとする男性や女性です。絶対にできません。絶対にありえません。試しに、好きなだけ約束をしてみてください。好きなだけ誓いを立ててください。「主よ、これからはあなたに誓います。あなたに約束しま

す。」そして…私は自分のことを話しています。多分 5 ステップ、5 分くらいはいけます。そしてもう、台無しになるのです。「主よ、ごめんなさい、よし、もっと頑張ります…！」主はこんな感じです。
「そういうことはやめてください。それは無理なことです。」この従順は、聖霊によってもたらされるのです。25 節。
25 あなたがたの先祖がエジプトの地を出た日から今日まで、わたしはわたしのしもべである預言者たちを日々彼らにつかわした。
また出てきます。
26 しかし彼らはわたしに聞かず、耳を傾けないで強情になり、先祖たちにもまさって悪を行った。
27 たといあなたが彼らにこのすべての言葉を語っても彼らは聞かない。また彼らを呼んでもあなたに答えない。
あぁ、エレミヤ...早くエレミヤに会いたいです。これは、あなたにとってどのようなものだったか？　確か、42 年くらいだという説もあるようです。エレミヤのミニストリーは 42 年間でした。これの？　宣べ伝え、預言し、宣告すること、そして、民は聞かなかったり、心に留めないだけでなく、その代わりに、強情になったのです。彼らは耳を傾けません。もしエレミヤが現代に生きていたら、牧師の講演に招かれることはないだろうと確信しています。だって、いいですか、エレミヤの説教に、誰も反応しなかったのです。ヨナを呼ぶべきですね。ヨナは町全体を、悔い改めさせたのです。ヨナが来れば、メインスピーカーとなるでしょう。しかし、エレミヤは違います。一人もいなかったのです。一人も。繰り返しになりますが、これは私たちの時代の考え方を振り返ることになりますね。数字が大事なんです。フォロワーの人数。”いいね”がすべて。登録者数。フォロワーが増えれば、登録者が増えれば、「いいね」が増える。
28 それゆえ、あなたはこう彼らに言わなければならない、『これはその神、主の声に聞き従わず、その戒めを受けいれなかった国民である。…
これ覚えておいてください。
...真実はうせ、彼らの口から絶えた。
これは非常に驚くべき光景です。真実は死んだのです。彼らは、亡くなった真実のための追悼式を予定しているのです。そして、「彼らの口から絶えた。」とは、つまり、真実がないのです。切り取ってしまったのです。もうないのです。死んでいるのです。さて、これはどうですか？　彼らが従わないことは分かりました。そのことは理解しました。しかし、戒め/矯正を受け入れることもしなかった。ふむ…。
ですから、もし彼らが戒めを受け入れたなら、彼らは従っていたでしょうか？　はい。ここでの要点は何でしょうか？　ここでの教訓は非常に明確だと思います。自分自身に正直になり、自分に問いかける必要があります。もし、私たちが主に従う者であれば、主から矯正を受ける者の中に数えられているのですから。牧会書簡と呼ばれるテトスやテモテの書簡がありますね。長老の資格のリストがあります。残念なのは、「教えることができる/able to teach」と訳され、表現されていることです。（Ⅰテモテ 3:2　参照）より良い理解としては、teach - able/教えやすい、教えを受け入れる　長老は、教えを受け入れる者でなければなりません。なぜなら、考えてみれば、教えを受け入れる人でなければ、本当に教えることはできないのです。矯正を受け入れることが出来なければなりません。教えを受け入れる者であるべきです。
本土では頭文字をとって...最近はこの略語を使うのに気を遣っています、なぜなら…いつでも、どこでも、どんなことでも、誰のことも言えない時代なのです。でも、とにかく言います。その頭文字は、FAT（太いの意味）聞いてください。ミニストリーやスタッフとして、あるいは指導的な立場で奉仕することを検

討している人は、”FAT”でなければならないのです。太っていてもいいのです。言ってみただけです。彼らは、Faithful/忠実で、Available/可能である必要があり、おそらくもっと重要なのは、Teachable/教えを受け入れる者であることです。FAT　もし教えを受け入れる者でないなら、出来ません。教えを受け入れる者でなければなりません。矯正を受け入れる者でなければなりません。
妻とちょうどまたこの話をしていたのですが、あの名作『カルバリの道』のロイ・ヘッションのことを思い出しました。気の弱い方にはお勧めできません。心の奥まで罪を示されるでしょう。彼はこのように虫と蛇を比較しています。虫を踏んで虫を潰してしまうと、虫はただ砕かれます。しかし、蛇を踏んでしまうと…シャー！　シャーっといって、あなたに噛みつくのです。そして、砕かれないのです。私たちは蛇だと思います。こう言っていいですか？　真実です。悲しいことに、明らかなのは、私たちが虫である以上に、蛇のような存在であることです。私たちが踏まれて、砕かれる時、それを受け取らないのです。蛇のように、仕返しをするのです。これは何年も前、本土でのことです。ある人が言っていたのですが、誰でもしもべのように扱われるまでは、しもべになりたいと思うものです。少しの間、そのままにしておきます。そこから先は聖霊が引き継いでくださいます。私たちは、束縛されたしもべですよね？　私たちは教えられる者でなければなりません。なぜなら、矯正を受けることが従順のきっかけになるからです。
29 あなたの髪の毛を切って捨てよ、…
私にはこの問題はありません。手遅れです、時すでに遅し。ー（笑）ー　喪に服し、嘆くことの象徴です。
…裸の山の上に嘆きの声をあげよ。主が、お怒りになっている世の人を退け捨てられたからだ。』
30 主は言われる、ユダの民はわたしの前に悪を行い、わたしの名をもってとなえられる家に、憎むべき者を置いてそこを汚した。
彼らが何をしていたか分かりますか？　想像するに、彼らはこれらの忌まわしいものを神殿に持ち込んだのです。彼らはそれを持ち込み、神殿に設置したのです。それはあなたが…生々しくし過ぎたくないのですが、何か忌まわしいものを持ち込んで…まず、あまり上手くはいかないでしょう。この神の教会にそんなものを持ち込んで。私たちはあなたに手を置くつもりですが、あなたが考えているような方法ではなく、聖書的な意味で。あなたはそんなものをここに持ち込んでいる。これは聖なる地です。その忌まわしいものを持ち込むのか。ここでもまた、断絶があり、切り離してしまうのです。　「私たちはそんなことしたことありません」と。そうですか？　私は言えますよ。きっと皆さんも言えますよね。教会について、教会の中に持ち込むことについて。神は説教壇に、神聖なものではなく、世俗的なものを持ち込むことを禁じておられます。それが、彼らが行っていたことです。彼らは神の神殿を傷つけ、汚していたのです。31 節。
31 またベンヒンノムの谷にあるトペテの高き所を築いて、…
これは後でお話しします。
…むすこ娘を火に焼いた。わたしはそれを命じたことはなく、またそのようなことを考えたこともなかった。
神は決して、人間の犠牲を受け入れられません。異教の神々は受け入れます。彼らは赤ん坊や息子や娘を生け贄にして、生きたまま焼いていた？　そうです。
32 主は言われる、それゆえに見よ、その所をトペテ、またはベンヒンノムの谷と呼ばないで、ほふりの谷と呼ぶ日が来る。それはほかに場所がないので、トペテに葬るからである。
これは…わお…お付き合いください。聖霊の助けを借りて、できる限り説明しようと思います。イスラエ

ルに行ったことがある方は、エルサレムの城壁の外側に、この谷があり、とても急な丘になっています。実際、バスは道路の脇を通ります。そして、その下にこの谷があります。そして、この当時のこの谷には、モレクという鉄の像がありました。そして、この鉄の像の腹は空洞になっていて、この谷で、モレクの鉄の像の腹に、非常に熱い炎を燃やすのです。そして、この像の腕はこのように前に出ていました。そこにイスラエル人がいます。彼らは、性的不道徳のために、望まない妊娠で生まれた子を持ってきて…（中絶肯定派の事です）望まない妊娠、出産をし、そこで、彼らは赤ん坊を連れてきて、谷にある、燃えるように熱い鉄の像であるモレクの腕に乗せたのです。赤ん坊は生きたまま焼かれ、彼らは赤ん坊を犠牲にしたのです。腹の炎（野心）という表現がありますよね。ここから来ているのです。この鉄の像の腹の中の炎のことです。そして、赤ん坊の泣き声をかき消すために、大音量で太鼓を演奏するのです。申し訳ありませんが、これは生々しく、リアルですが、その必要があるのです。なぜなら、それはこんにちも同じだからです。鉄の像や、腹の中の炎ではありませんが、本当にお腹の中で解決して、赤ん坊を殺すのです。そしてこれはすべて、欲望と性と豊穣と繁栄の神と女神を崇拝するという旗印のもとに行われたのです。神は仰います。バビロンがやって来る時、33 節にあるように、死体は、まさにこの谷間に高く積み上げられ、子どもたちは生きたまま焼かれたのです。預言の類似性にゾッとさせられると言う時、これこそ、預言的な類似性にゾッとするものです。33 節。

33 この民の死体は空の鳥と地の獣の食物となり、これを追い払う者もない。

特にその文化圏では、死者をきちんと埋葬しないということは、今日に至るまで考えられないことであったでしょう。34 節。

34 そのときわたしはユダの町々とエルサレムのちまたに、喜びの声、楽しみの声、花婿の声、花嫁の声を絶やす。この地は荒れ果てるからである。

そして、この約 40 年後に、まさにこのようなことが起こるのです。40 数年後に、まさに起こったのです。さて、先週も同じことをお伝えしましたが、もう一度言いますが、私はこの章を、そしてこの聖書の学びを、もっと元気よく終わらせることができたら、それ以上の喜びはありません。しかし、出来ません。私は出来ません。これくらいの強さが必要なのです。なぜなら、これが起こるからです。この国に対してだけでなく、この世界に対して。裁きが来ます。裁きと破滅がやって来ます。そして、ここには、これから起こるであろうことを、厳粛に、冷静に描写されているのです。さらに言えば、それは私たちの誰もが想像もつかないほど早いとも言えるでしょう。ある意味では、私たちはすでにその杯から味わい始めているのです。神の裁きを。神の裁きを。

では、カポノ、上がって来てくれますか？　お立ちください。大丈夫ですか？　私が言いたいのは、皆さんが今週またここにいるという事実です。わぉ…、皆さんを愛しています。本当に愛しています。

厳しいものであっても、あなたの主や主の御言葉を愛する心が、私は大好きです。

主よ、本当にありがとうございます。これは真理です。これは真実です。私たちはこれを知る必要があり、聞く必要があり、心に留める必要があります。主よ、私たちは裁きが来ると知っています。手遅れになる前に、一人でも多くの人を火から救い出したいのです。主よ、お願いします。迷っている人がたくさんいるのです。私たちはどれほど祝福されているのでしょうか、私たちがあなたを知り、あなたが私たちを知っておられ、救われ、あなたが私たちをここから連れ出してくれることを、どれだけ当たり前のことと思っていることでしょう。しかし、主よ、私たちは来る裁きから逃れられる人々を、できるだけたくさん一緒に連れて行きたいのです、主よ。この世界は裁きの時を迎えています。エレミヤの時代と同じよう

に。主よ、この章が困難であったように、この章はこんにちの世界に生きる私たちに、非常に当てはまるのです。主よ、そのことに感謝します。感謝します。それを聞く必要があります。ここから先は、あなたが引き継いでください。このことを私たちの人生に適用することから、自分たちの権利を奪ったり、切り離したりすることがないように。主よ、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7